

# 江戸天地雲出火場所

江户十里四方場所附 東海道

○町役三千拾二丁そんじ出火  
三十二年より出市府内大字赤  
土萬戸七千余戸人向至  
○御宿番宿大名房三百余戸  
門戸一千以下人乃手之移代



10

8

卷之三

とれたふ安政二年十月二日表たつ附とあらん  
にひこうにやりひじゆひ千種しゆと大ようづき小  
様原へぢしんのとく火そばらび焼るあんきま  
の火所まちえぐれは尾町一丁目より柴火角町  
あらゆりそばらびだらび燒田町大がんあらゆ  
戸山の宿屋大町へ火そばらび焼るあんきま  
うとうりあじまとく甚焉町三丁とも焼るさす  
金龍山城ある本半町をあく雷神門そんじ  
るたゞ大半焼くさす並木原へ火そばらび焼れを  
生じて駄於西つてのそばらび焼るうり支よう火  
あ焉うばくそんじ度連するすのす段町家よのよ  
段石下谷四へ及至るも外市大名店中すれあら  
そんじと御まらうも者町焼せお町中わざぶ  
坐じて和泉じゑすまでりく出るまより仲町  
ううあうとぞれ表通りやうまー端をひろそじへ  
井口のうん壁三間うち町二丁目より二丁目まで  
招ほん二丁こも縫くそばらび焼方中をとぞニ三がま  
むらん板のとね平被覆ち板の板甲を焼子葉  
だんご板はんあまく板中若光ち板上とぞ  
板ほんまよりかく通うそんじ切面一辻焼か及孫  
市人役あがくりそばらび焼はん天社社  
のま門ああらん町かおもつれへあらんのま  
えどよ内三辻町中経そ二新そぞれ本をまきで  
一新がれそあらん町新町家是うん門あめ、  
ひまき天雲ちくねうひくづあらそ素衣町あ  
枝つぶらく町内一新そく町また歟大車の底ま  
あ町あうそんじとね平被覆ち板  
え焼川一のをあまく板に及ぼすに及ぼすのあ町崩  
筋透うり今川橋ひすで燃へくづれ又日午橋引ひ  
くづれあらる二面より妻町やま町や丘町新町た  
蟹町を大町や町内をすれ東橋をくづれしを  
ひまき模十反室又雙りまうりまに橋通うて見  
源助町、まや橋をくづれす用川町より先や  
と全般通まを燃へくづれする窓へ大地一尺



本阿弥ふどんには天降石がれ野のづる答町

ども傍くそんじるはつまむひへ松平源慶ち様

又源川のちおとをせせにあはれのあ阿源

くうとお壁をたて石原ひつねくへ松平源慶ち様

源所烟あらすじで壁を又御用事へ與へまへるを

筋達う今川橋ひまで然へうづれ又日草橋安が

され重なる二日より車町や支町を足町新町

蟹町を北町や下町を中江東橋さく行はしを

五立模十文字よ變るまわら是日橋通へて西

源助町まで鐵くうづれす用川町あり出

しと令放旦を拂ふく行すまわら源へ太地一尺

レドモスケ砂とあれ出 源へ太地一尺

ああ、然るは盡場一ヶ不殺變さうべり

んとおとおとひ東海乃へ太地せえやどみ

おゆうとお見物へえとひ又源城内へえな

ああねやすと太地し出やあくまうなり猪の鳴

虎門内へ西井雅乐頭舟東川岸根を極其變和

田舎内へ車や馬を極め平紀後ち根大をいと

絶壁八代院門器へと村並るち根ね車お揃ひ

極其消ゆれ猪の頭變すより外端原毛利軍

移移於變至外太しがれ 小川町や下丹波縣

松平紀修は福井原武城大浦根坂らへ向ひ正義

あけ正而す出大船と大うれ四ツ谷源附うち物町

あのとくとく出れぬ大船小川川は直度門あ修

うづき變すうれ赤坂一つ木母うる青山六半の

下極樂おほれ出大船と出大船と外

御舟内十里余方へ仲山乃大宮正まで太地み

うづれおまうれおうれ大船と出大船と外

うづれおまうれおうれ大船と出大船と外

日光た中へ岩つれうれと出大船と外

出大船と出大船と外

三十字不うれ出御舟内大半

土糞數十万七千余戸人内を

○町敷三千拾二丁そんじ出火

○御舟内土糞數三百余戸

御舟内土糞數三百余戸

丸之内



約二十里四方場所附 東海道